

あけまして、おめでとうございます。本年も網走水産試験場をよろしく  
お願いいたします。

▼平成 26 年 1 月に送付しましたミニレターNo.22 の冒頭には、前年  
の水揚げについて「ホタテガイは、・・・近年にない水揚げ金額となりました。また、スルメイカも豊漁で、秋サケも漁期前の来遊予測を上回る水  
揚げとなり、全体としては非常に好調な年でした。」と書かれています。  
ほんの 4 年前のことです。来年の 1 月にはこのような記載が出来るよう、  
今から願うものです。また、同時に本気で北海道漁業も量から質へと舵を  
切る必要に迫られているのではないかと思います。近年の大幅な漁獲量の  
減少に漁獲量増大手法だけでは対応できない状況になってきているので  
はないかと感じています。魚をなるべく大きく成長させ少ない量でも金額  
でカバー出来るよう選択的に漁獲する、数は少なくとも質の良い種苗を放  
流して生残率や回帰率を高め結果として資源を増加させるなど、これまで  
にも取り組んできた課題ではありますが取り組みの質をさらに上げるこ  
とが必要ではと考えます。また、ある程度の量を原料として必要とする水  
産加工業においても、高付加価値化を図る高次加工がさらに求められるも  
のと思います。これまでなかなか難しい面があり進んでこなかったように  
思いますが、なんとかブレイクスルーできる方法を時間をかけてでも考え  
ていかなければならないと感じています。

▼先月 4 日に網走漁業協同組合会議室において平成 29 年度ホタテガイ  
担当者会議を開催したところ、宗谷・網走・根室管内の漁協や水産指導所、  
オホーツク総合振興局、熊本大学、新潟大学、道総研工業試験場、中央水  
試などから 70 名近い出席をいただきました。各試験場や大学からは現在  
取り組んでいる課題の進捗状況などの説明があり意見交換を行いました。  
また、出席いただいた各漁協からは今年度のホタテガイの採苗状況や生産  
状況についての報告があり、情報交換をしました。今年の採苗については、  
順調に確保できたところと足りなくなったところがあったようです。ま  
た、採苗後の成長が思わしくなかったり、ヒトデやイガイなどの付着物が  
多く見られたりしたところもあったようで、地域により採苗とその後の成  
育に良不良があったようです。生産状況については、ほぼ計画どおりの生  
産を上げたところが多かったようですが、貝柱の歩留まりが低く水揚げ重  
量が伸びなかったようです。春に出した貝柱歩留不良予報では、西部海域  
では不良の可能性が高いとしていましたが、東部海域では不良の可能性は  
低いとしており、一部予報を外したかたちになりました。また、天然貝の  
発生が多く見られ選別や漁獲に苦慮したところもあったようです。さら  
に一昨年突如として減少したヒトデも復活の兆しを見せているところもあ  
るようです。ヒトデや天然貝の発生については、今後もやっかいな問題と  
なってきそうので可視化技術などを利用し、注視していきたいと思いま  
す。

今年から平成 26 年低気圧の影響を受けていない、ホタテガイを生産す  
ることになり完全復活を期待したいところです。 (網走水試 上田)